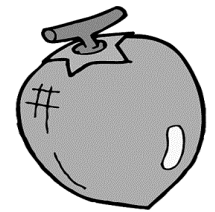


# 柿栽培技術情報（6月の管理）



令和6年5月31日

宮城県大河原農業改良普及センター

## 《6月の管理のポイント》

**6月は、炭そ病と落葉病の重点防除期間です。**  
落葉病と炭そ病は降雨により感染が拡大します。降雨前に薬剤防除を実施しましょう。

### 1 気象経過

平均気温は、平年より平均 2.8℃高く推移しました。降水量は4月中旬から5月初旬にかけて平年よりかなり少なく推移しましたが、5月中旬からは平年並となりました。

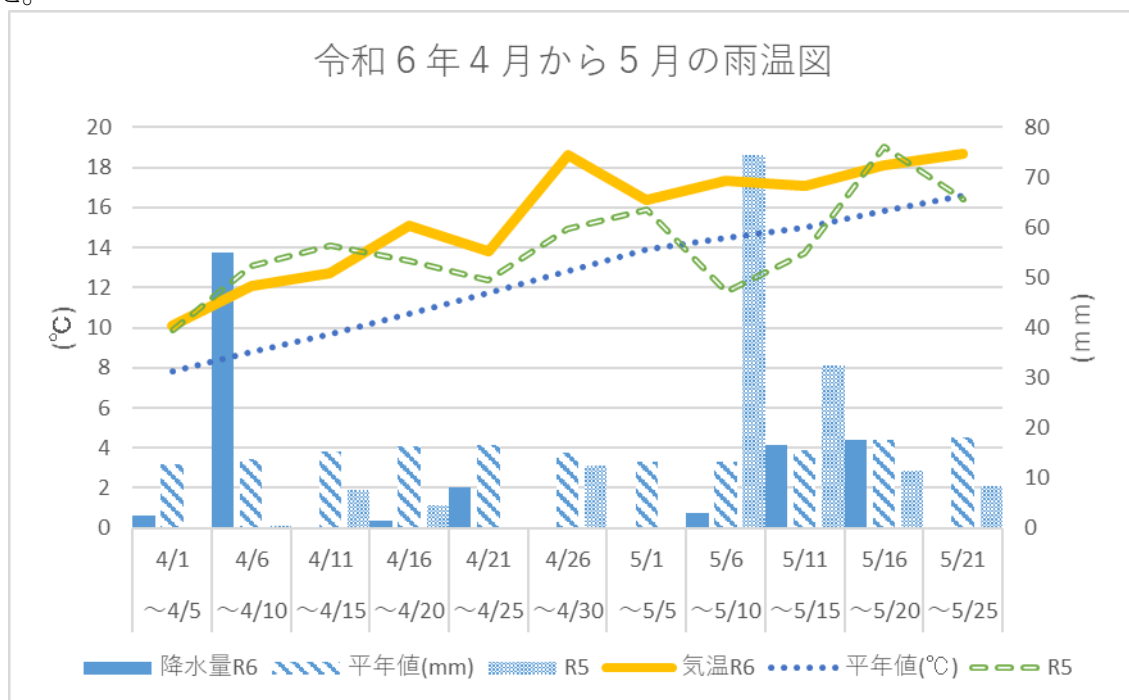


図1 アメダス丸森地点の半旬別平均降水量及び気温の経過  
(棒グラフ：平均降水量、折れ線グラフ：平均気温)

### 2 早期落果について

- ・落果の主な要因は、受精不良と栄養条件の偏りです。
- ・かきは開花後の6月に生理落果が多くなります。生理落果の終了まで摘果は控えてください。

### 3 6月の栽培管理

#### 芽かき

- ・骨格となる枝の直上に発生した新梢や枝が伸びる方向に逆行する新梢は、養分の浪費を防ぐため早めに除去します。
- ・大きな切り口に発生した新梢は、切り口に近いものを数本残して整理し、切り口のゆ合を促進します。
- ・弱い新梢は、次の年の側枝に育成することもできます。

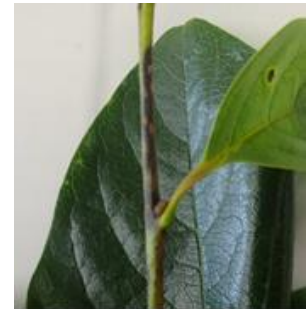
#### 4 病虫害防除

- ・ かきの生育ステージを確認し、遅れないように防除を実施しましょう。
- ・ 適正な肥培管理、通風採光をよくするなどして発病しにくい栽培環境づくりに努めてください。

##### (1) 炭そ病

###### イ 特徴

- 病原菌 : 糸状菌
- 活動適温 : 20～27℃ (15℃程度から感染する)
- 伝染経路 : 水 (雨や朝露など)
- 感染と発病 : 植物体に侵入し7～10日程度で発病
- 好適な環境 : 排水不良園、密植園で風通しが悪い、谷地の日陰地、朝露が残る地形



【炭そ病の新梢病斑】

###### ロ 6月の防除のポイント

- ・ 10日～15日間隔での薬剤散布
- ・ 散布後1～2日程度、降雨の心配がない日を選んで防除する。
- ・ 炭そ病斑の出た新梢・徒長枝・果実は除去し、園外に持ち出す。

##### (2) 円星落葉病

###### イ 特徴

- 病原菌 : 糸状菌
- 活動適温 : 20～25℃ (最低温度10℃)
- 伝染経路 : 風 (降雨によって孢子が飛散)
- 感染と発病 : 梅雨時期に葉に感染、2～4か月以上の潜伏期間を経て発病 (2次感染なし)
- 好適な条件 : 梅雨時期の降雨、耕土が浅いほ場、根の障害 (肥料不足、干ばつ、長雨等)

###### ロ 6月の防除のポイント

- ・ 10日～15日間隔での薬剤散布

##### (3) 角斑落葉病

###### イ 特徴

- 病原菌 : 糸状菌
- 活動適温 : 30℃前後 (最低10℃)
- 伝染経路 : 風 (降雨によって孢子が飛散)
- 感染と発病 : 梅雨時期に葉に感染、1か月程度の潜伏期間を経て発病 (2次感染あり)

###### ロ 6月の防除のポイント

- ・ 円星落葉病と同じです。

#### (4) カキクダアザミウマ

##### イ 生態

加害部位 : 若葉や果実

被害の特徴 : 果実に黄褐色の小斑点が輪状に出現

形態 : 成虫は体長 2 mm 程度で黒色

越冬形態 : 成虫でカキやスギ等の粗皮内

発生回数 : 年 1 回の発生



生活史 :

カキクダアザミウマによる被害

4月	5月	6月	7月
越冬成虫がカキへ飛来 →若葉を縦に巻き産卵	→第1世代幼虫が発生	→第1世代成虫は 6月に幼果を加害	→越冬場所へ移動

##### ロ 防除のポイント

- ・ 巻葉は見つけ次第除去します。
- ・ 薬剤防除は 5～6 月に実施します。
- ・ スギなどの樹皮でも越冬するため、近くにスギがある園地では特に注意しましょう。

##### 【農薬使用上の注意】

- ・ 農薬を使用する際には、その剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。
- ・ 農薬散布を行う場合は、事前に最新情報で農薬登録を確認し使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。